

「公益社団法人 日本口腔インプラント学会認定施設」

東京形成歯科研究会

&インプラント国際情報

H.23.9.1 (THU)
No.11

原稿募集中

発行

編集 東京形成歯科研究会
企画 オクデラメディカル
発行者 奥寺元

東京都北区王子2-26-2-3F
TEL 03(3919)5111
FAX 03(3919)5114
E-mail: okudera@carrot.ocn.ne.jp
http://www.tpdimplant.com/



Livesurgery が行われた Dr.Shu のクリニックにて

成歯研究会と ISBB(The International Society of Blood Biomaterials) の活動の一環として台湾へ行ってまいりました。前回平成22年2月5〜8日と台湾へ行った時は Dr.Wells の Dr.Sebastian のエネルギッシュなライブオペに圧倒されましたが、この度も6日に Dr.Shu (台北市大衛牙科診所植牙中心 蘇嘉俊先生) のライブサージェリーから始まりました。6日は先発隊として奥寺元会長先生、北村豊先生、鈴木正史先生と私渡辺が参加いたしました。そのオペはお二人の患者さんへのドイツ Oratronics 社製 BICORTICAL®-Implant (http://www.oraltronics.org/eng/3_produkte/2_bicortical/bicortical.htm) のインプラント埋入を経験25年以上を持つ Dr.Shu によるオペでした。Bicortical と言うと、皮質骨を2回貫通する Bicortical を思い浮かべますが、そうではなくて



平成23年7月6日から10日まで、東京形成

台湾ライブサージェリーと国立衛生学院交流会と陽明大学での ISBB ワークショップに参加して

東京形成歯科研究会 渡辺 泰典

Oratronics 社製の商標でミニインプラントと言われる1ピースでピン状のスパイラルインプラントです。フラップレスで埋入でき、埋入後も角度をプライヤで調整できるなど使い方も多岐にわたり、Dentatus の MTI インプラント (<http://www.witx.co.jp/MTI.pdf>) の暫間目的とは違う permanent の半永久的使用に耐えられるものです。実際に、約17年前に日本 Dr.Shu が埋入した奥寺先生の患者さんの17年後の写真も紹介されて、その実用性の広さを認識したところにライブサージェリーが始まりました。意外と長いボディを使うものという印象でしたが、前歯部領域へは応用範囲が広いと感じ



国立衛生学院 Lin 教授と会長



竹南での各国の要人と昼食会

じました。無事ライブオペも終了し、竹南と言う日本でいう筑波学園都市のようなところへ電車です約1時間半の所へ移動となり長い一日目の終了となりました。2日目の7月7日は竹南国家衛生研究院 Dr.Feng-Huei Lin (林峰輝) 先生(国立台湾大学醫學工程學研究所教授)のお招きにより、朝から国立衛生研究所にまいりました。2月横浜で林先生が横浜にいらした時は失礼ながら童顔の青年と言うイメージでしたが、台湾での彼のポジションに驚きました。日本でいう厚生労働省の技官のトップで、通された部屋も整然としたお部屋できちんとした秘書からコーヒーを出されました。そして竹南国立衛生学院 WORK SHOP に参加しましたが、ドイツからの Dr.Augustinus Bader、フランスからの Dr. Thierry Burnout、韓国からの Dr.Su-Guan Kim から、幹細胞からの治療の病態や臨床的なインプラントの話等多岐にわたってなされました。この度は台北市内の学生も参加され、WORK SHOP 終了後昼ごはんも一緒にしました。台湾の若者のエネルギッシュさに圧倒されましたが、同時



地震の義捐に対するお礼のポスター



陽明大学の前で日本の参加者全員と集合写真

に親的な国柄で我々も非常に居心地のいいひと時を過ごしました。夕方からは日本からの先生方も合流して、東京医科歯科大学の春日井先生はじめ、東京理科大学の斎藤先生、また東京形成の諸先生方も一緒に、まずは台北市内の陽明大学において Welcome Party に参加となりました。こういった人脈は東京形成ならではのつながりで、私のような田舎者にはなかなか体験できない一時でした。さて、3日目の7月8日はいよいよメインのイベントがはじまります。陽明大学生研究員執行長 Dr.ISBB を奥寺理事長とともに執行している、Henry Chen-Yao Su (蘇正亮先生) 教授主催の ISBB Taipei Workshop が行われました。ここでは前日の竹南の Workshop に引き続き、日本からの春日井先生、斎藤先生らによる最先端の治療も紹介され、またポスターセッションもあり、大いに盛り上がりました。また、この度の東日本大震災において、台湾からの多大なる義捐に対し奥寺会長はじめ日本からのお礼のメッセージを伝える場面もありました。この中で特に自分として興味があったのは、竹南の林先生の GHCS という合成タンパクの軟骨再生への取り組みがユニークな実験で、もうひとつにも応用されているものが紹介されました。後からフロアでディスカッションもできる時間がありましたが、春日井先生に通知してもしないながら見識を深められたのは、このような場でしか経験できない貴重なものとなりました。

4日目と5日目は主に市内観光となりましたが、今まで ISBB で一緒にしている台湾の先生たちも同行してもらい、台湾の超高層ビル、台湾の魚市場、そして古宮博物館の観光もしてまいりました。特に古宮博物館は日本と台湾の歴史をかなりみる上でも非常に意味深いもので、歯科医師としては日本と台湾の歴史を是非また訪れたいところです。最後にこのような機会に恵まれ、奥寺会長はじめ東京形成のメンバーに感謝します。

最近の学会総会運営のあり方について思う。学会が何の目的に開催されるのか? その原点は、日頃研究を積み重ねた学問を多くの研究者を共にする面々の前で発表し、議論を積み重ねて助言や批判を受けながらその研究を確実なものにし、その結果新説が生まれ、広く理解されることがエビデンスとなり、名実共に医学の発展に寄与することになる。しかし、昨今の総会のあり方を問うと、お祭り騒ぎのイベントに思える。多くのセクションが目白押しで、永年の研究研鑽からのシンポジウムではなく、単なる文獻検索からの議論し、また企業が絡むものや他学会の国際学会も含み、インプラント学会は会員が多いのを見計らい、直接関係しない学会が便乗し、どこの学会か分からなくなっている奇妙な学会である。

体は一つ身である故、色々な会場には出られない。もっと原点に戻り、一般口演を主体に運営させるべきである。学会としては、その内容充実の先に信頼されるインプラント臨床があり、また新説や新材料の開発が存在して、人類の医学発展に真の貢献ができるものである。

現実には、その低値は学会誌に原著の投稿が少なく、はたまた査読においても永年関連発表をしてきたにもかかわらず、抄録と共に容認してきた経過にも、突如降って湧いてきた投稿のように思われ、何度も最初からやり取りを繰り返さなければならぬ査読の現状があり、時間の無駄が感じられる。この現象は、査読委員が多忙で学会総会において一般口演を把握していないのが実態ではないだろうか。

一般演題が充実していれば、その時議論が行われ、多くのより良い論文が出るはずである。そうすれば未だ未開な論説や材料が解明されて合理的な臨床の解決が前進する。その故、総合学問を手掛ける開業医は、その一線として重要な位置にあり、基礎研究を含めた活動から発する学問は、現実味ある臨床であるゆえ、開業医がもっと学会を誘導すべきである。

奥寺 記

コラム



PHILADELPHIA BMP SYMPOSIUMに参加して



東京形成歯科研究会 豊田 寿久

2011年4月13日から4月19日の日程で NEWYORK IMPLANT SEMINAR および PHILADELPHIA BMP SYMPOSIUM に参加してきました。

東日本大震災の余震が続いている中、後ろ髪をひかれる思いで成田空港に行った。4月13日は不気味で、朝6:30に起床して石橋駅に向かった。通常は電車で東京まで行って成田エクスプレスに乗るのだが、電車が止まってしまうと思い、宇都宮駅からバスで成田空港に行った。案の定、間々田駅の踏切で自動車立ち往生して、上りの宇都宮線が不通になっていた。「ああ良かった！電車ならやばかった！」と思いながら成田空港に着いたのだが、普段に比べて人影がまばらで閑散としていた。案内の女性に尋ねると、地震発生時は日本を脱出する外国人でこった返ししていたが、最近旅行客の数がめっきり減ったと言っていた。留守中、原子力発電所が爆発でもしないかと心配しながら、一緒に行く奥寺元先生、奥寺俊允先生、北村先生、増木先生と私の5人で UNITED Aline に搭乗した。シカゴ経由でニューヨークまで16時間のFlightだ。UNITEDはサービスの悪いAlineで有名な安いチケットなので仕方がない。隣の増木先生はワインばかりおいしそうに飲んでいて、小生は少なからずアルコールに弱いJUCEとWATERを飲みながらビデオを3本も見てしまった。やっぱりシカゴに着いた。



ニューヨークの自由の女神像をバックに

シカゴで入国審査を済ませ Baggage をピックアップして国内線に乗り換えるのだが、ここで一騒動持ち上がった。俊允先生不審者景に感動していた。4月14日はバスでニューヨークの名所を巡りメトロポリタン美術館を見学した。セントラルパークは新緑につつまれ、桜、梨、こぶし、モクレン等の他に日本にはないような樹木が植えられており、北村先生の興味はここでも尽きないようだ。9・11テロの現場は新しいビルが建設中だった。テロと自然災害の違いはあるが、大きくダメージを受けた人々の感情は同じで、ホテル一階のレストランで食事をしていると、ボーイが「私も日本人と100%気持を同じくしているの、日本を応援しているから頑張ってくれ」と励まされ、シカゴの空港でも若い米国人に、「日本に帰るのか、頑張ってくれ」と励まされた。なんだか嬉しい気分になった。夜は元先生が米国留



ディナークルーズで

学時代にお世話になった(オレゴン大学元教授夫人)、方々をお招きになり、一緒にディナークルーズを楽しんだ。ハドソン川に架かる有名な橋の下を通り、ライトアップされた自由の女神を側に見ながら、清々しい落ち着いた時間を過ごす事ができた。4月15日は Richard Kraut 先生の MONTEFLORE HOSPITAL の Live opo を見学した。私達が到着すると、患者さんはオベ室に stand by されており、鎮静されていた。ドロマカムとプロポフォルで鎮静を行い、上顎6本の即時埋入と、左右の Sinus graft を BMP、PRP、FDBA、XENOGRAFT を用い、わずか1時間で終えたのには驚嘆した。BMP の使用法については私がイメージしたものとは大きく異なり、垂直的、水平的骨造成に scaffold として補填材は必須で、今回の BMP シンポジウムではさまざまな補填材が使用されているが、それらがどんな働きをし、どんな意味をもつかをよく見てほしいと Kraut 先生からアドバイスを受けた。そのあと隣接する瀟洒な建物の中で講義を受けた。午後はニューヨークから AMTRAK でフイデルフィアに向かう事になっていたが、交通渋滞により予約の時間に遅れた。お前らが悪いのだから700ドル払えと言われた。これは我が奥寺元先生の出番。得意の交渉術で何とか座席を確保し、一度は乗ってみたかった AMTRAK の二等車に乗れた。でも、わずか1時間の旅なのに215ドルはちよつと高い！車内は新幹線ほどきれいでなく、さほど広くもない。やはりアメリカは自動車の国だと実感した。フイデルフィアは文化の街で、その中に彫像やモニュメントが点在し、全体が自然の公園のようだった。独立宣言で有名な我々の年代ではロッキーマウスの映画の方が馴染み深い。美術館の横にロッキーマウスの彫像が置かれてあった。4月16日は BMP シンポジウム初日。外国の学会、研修会に来ると、朝食は会場に出るのが定番だが、ここでもフルーツ、パン、ソフトドリンクがバイキングで出された。奥寺元先生は親しそうに Dr. Marx と話をされていた。でかい魚でも送ったのですか？と私が訪ねると、釣り仲間だから。大きな魚を釣り上げよう、との話だったらしい。……ちよつと英語勉強しなきゃなあ……と実感。BMP シンポジウムの演者は世界的に有名



Dr. Kraut とともに

な臨床家や研究者が多く Dr. Marx をはじめ Jensen、Sasha、Cochran、Moy 等一度は耳にした方々ばかりで、この学会が世界の最先端を行くものである事は疑いがない。BMP は骨欠損部の増生において不可欠のものになりつつあり、PRP、Ti-Mesh、補填材、BMAC system 等は普通に用いられている。BMP は魔法の材料ではなく、幹細胞に働きかけるものでその作用は多種多様であり、4カ月ではエックス線不透過性は亢進しないが、6カ月はほぼ D3 並みの骨になってゆく。BMAC System と同時に用いる事により皮質骨様の硬い骨を作れる事がある。先天的に欠損している顎骨の形態を回復させる事も可能で、斜顔裂、顎口蓋裂等に応用され、その将来を垣間見せた。しかし、年齢、量、補填材の種類、Scaffold の作り方等解決すべき点も多い。何よりも、高価である事が問題だ。当日は Welcome Party が催されたが、日本からは我々6名だけの参加だったようだが、韓国からも数名参加しており、熱心にメモをとっていた。将来は BMP だけの学会ではなく Tissue Engineering の学会に発展するぞ。MARK と同様に今回のシンポジウムの主役の1人である Ole Jensen は Tissue Engineering の Editor であり、その方向性が見えていた。4月17日は矯正、奇形、顎骨連続離断症例等に対する BMP の応用がメインで、ここは北村先生の出番だ。盛んに質問をされ、さすが口腔外科の Specialist ぶりを発揮していた。Breaking Seminar では、我々が奥寺元先生が質問に立たれ、David Cochran に Distraction の Recovery に BMP の使用の如何を質問されていたが、その迫力に小生は圧倒された。やっぱり元先生はとんでもない怪物(魁者)だ。



疲れを癒す最後の晩餐

この日の夜 China Town にある四川料理のレストランで打ち上げ夕食会を行った。ピリ辛好きの小生にはこの上もない食事で、米6日間の楽しい研修をこの5人の仲間たちと一緒に出来た事が嬉しかった。翌日の朝、鯨岡先生が見送ってくれ、ホテルを後にした。彼は夕方バリエルでドイツに帰った。たった6カ月しかたつていないのに、見違えたように頼もしく見えた。BMP は日本では承認されてもいないし、ほとんど使っている人もいない中で、この眩しすぎる材料が我々の臨床に何をもたらすかわからない。元先生が言っているように、地元根ざした雑草のような臨床家、これが理想像だとすれば、この高価な材料の代金をどうやって患者さんに請求すればよいのだろうか？富裕層相手に自由診療のみを行う歯科医師ならいざ知らず、小さな田舎町の歯科医師にどうすればいいのか？一側 Sinus Graft 材料代50万、せめてもつと安価であれば……。人間の幸福、食する喜び、その崇高な目標の一端に、歯科医師が参画できるとすれば、今は知識を蓄え、技術を磨き、その時に備えるしかないかもしれない。入れ歯が壊れてしまったと、不自由な手足を引きずりながら這うようにして、遠慮がちに来院される患者さんを大切にしたい。……医療に差別があつてはならない。その思いを強くしています。最後に、このような研修会を企画し、外国との連絡を密にするには大変な苦勞がいります。久々に感動的な研修会をさせていただき、元先生、俊允先生、本当にありがとうございました。

ライブオペに参加して



東京形成歯科研究会 飯塚 智彦

この度はライブオペに参加させていただき、ありがとうございました。症例の解説および術式、骨再生のメカニズム、

使用材料の解説等、今回のオペに對した基礎知識から、手術終了に至る全てのステップの解説を網羅した有意義な会に参加できたことを非常に喜ばしく感じております。

私は今回用いた材料についての詳細にはあまり見解がありませんでしたが、この会に参加させていただいたことで、自分では未知であった材料について知ることができました。まだ知識としては浅いので今後も多面的に学習していこうと思います。さまざまな補填材や技術によりインプラントの適応範囲も広がっていますが、それを用いたりカバリーについて基礎的なことから学習してみたいと感じました。本症例の術後評価も確認できたら光栄です。

また、ドクターにより術式はさまざまのため、他の先生方の執刀を見学できる機会があることはとてもうれしく思います。自分と違った術式、技術をみることで自分の技術の確認ができることや新たな技術として吸収できること、また症例による手術法のバリエーションを増やすことができると思います。今後とも多くの手術をみることで自分の手技にアレンジを加え、効率、仕上がり、術後の経過を向上させるよう努めてまいります。

またこのような機会があれば、積極的に参加していきたいと思います。ありがとうございました。

東京形成歯科研究会 組織再生 LIVE SURGERY を見学して

千葉県八千代市開業 わかば歯科

東京形成歯科研究会 大八木 章好



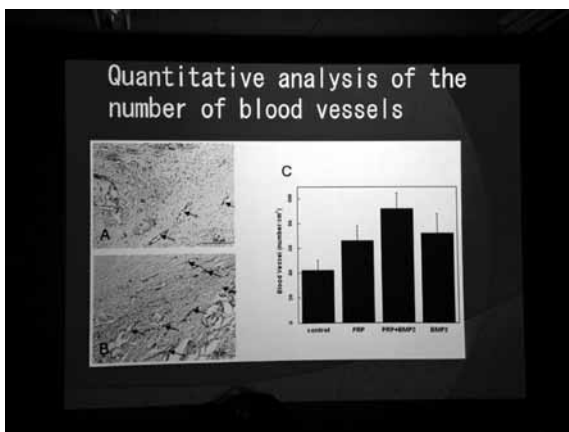
平成23年7月24日に王子歯科美容外科クリニックにてオペが行なわれました。午前中は研修室で症例検討、骨再生のメカニズム、BMP・PRP等についての講義がなされました。

奥寺先生ご自身が6年前に位置を改善するため、左上2番にDistractionされたインプラントである。今回は左上2番のややへこんだ歯肉をインプラント周囲の骨を含めた改善を目的としており、更に同時に鼻唇溝改善の美容外科的骨造成が目的でした。午後1時から採血を行い、奥寺俊允先生により全部で60cc採血し、PRPの調整、



Ope 室風景

講演会場と Ope 室のリアルタイムで画面で把握



PRPの作成が行われました。歯科医師として自分自身なかなか採血そのものに抵抗があり、簡単に採血される俊允先生を見て採血の練習の必要性も感じました。

ハーベスト社製のPRPはキットそのものがあり、便利に感じられたと同時にPRPの治療そのものがある意味、完成している治療であると言えるかもしれません。採血し、PRP・PRFの作成と同時に、骨補填材（非吸収性HA）のフック物処理、BMP処理を行いました。この作業がなかなか煩雑で、歯科衛生士や歯科助手では任すのが難しく感じ、この作業を代行する勤務医が必要ではないかと感じました。採血後、同時にセデーションを増木英郎先生により開始されました。セデーション、局所麻酔が十分効いているのを確認してからライブオペが始まりました。

第一執刀者が北村 豊先生、第二執刀者が豊田 寿久先生によって施術されました。北村先生が切開の位置から縫合まで丁寧に分りやすく説明されていました。切開では、前歯で審美性が重要と言うこともあり、左上1番と右上1番の遠心から扇形に歯間乳頭を避けて切開していました。剥離・搔爬で、特に搔爬に時間をかけていました。十分不良肉芽をしつかり搔爬し、インプラント周囲と骨造成部位の骨に對しても軟組織を残さずしていました。やはり、基本が大

事だと学びました。

インプラントのスレッドが5スレッド近くに露出しており、オペ前のイメージより大きく骨吸収していると感じました。ここでテンションフリーにすべく、減張切開を十分行っていました。1度で歯肉境移行部の深めの位置に、更に再度浅めに切開を追加していました。自分自身、減張切開が不十分になりGBRが失敗したことがあるので参考になりました。反対側では、大きく切開・剥離せず、右上1番縦切開を支点に右側をパウチ状に剥離していました。低侵襲で不要な痛みを出さないようにする北村先生の心遣いが感じられました。インプラント表面をクエン酸処理・レーザー処理・強酸性水にて洗浄後、ラウンドバーやピエゾで皮質骨に十分出血が出るまで穿孔を付与していました。

PRPとBMPで処理された補填材をインプラント周囲の吸収部、反対側のパウチにも十分補填しました。その上にバイオメンブド、PRGの二重膜で縫合していきました。テンションフリーで十分余裕をもって縫合されていました。将来的な歯間乳頭の形態を考えて縫合されていました。全ての一つの基本的な手技、切開、剥離、搔爬、縫合さらにGBRに必要な減張切開とテンションフリーの縫合が大事であると痛感しました。

歯科医療は、良く足し算ではなく掛け算と言われ、一つの手技が全て上手く行かなければ失敗に終わってしまうことも多くあります。GBRであれば、感染したら十分に骨ができない場合もあります。大変勉強になり、基本の大事さを思い起こしました。今回、一つ一つの手技も丁寧に行為されていた北村先生、豊田先生をはじめとした、増木先生、奥寺 元先生、奥寺 俊允先生に感謝したいと思います。

ー共催及び主催イベントー 多くの参加を!!

Philippines National University in Manila ISBB WORKSHOP 2012 IN MANILA, PHILIPPINES



血液生体材料応用・幹細胞治療 国際ワークショップ

A hands-on training program using autologous blood to prepare thrombin
ー自己トロンビン制作法実習ー

ISBB 国際血液生体材料臨床応用会議認定組織再生臨床医試験申込受付中
ー骨軟組織再生とインプラントに係わるポスタープレゼンテーション発表募集ー

参加者：国際有名血液専門家、幹細胞研究学者

日 時：2012年3月16日(金)~20日(火)

開催地：フィリピンマニラ市国際大学

Keynote Speakers：

National Yang-Ming University
WHO consultant
JSOI 会長
報徳歯科
エルム駅前歯科クリニック
信州口腔外科インプラントセンター
銀座柳通り歯科クリニック
王子歯科美容外科クリニック
あけぼの歯科
東京形成歯科研究会

蘇 正堯
Dr.Prof.T. Burnouf
古澤 利武
豊田 寿久
増木 英郎
北村 豊
鈴木 正史
奥寺 俊允
渡辺 泰典
奥寺 元

Sponsored by：

Philippines National University Joseph Lim
Cosponsored by：
National Yang-Ming University
World Federation of Preventive and Regenerative Medicine(WFPRM)
International Society of Blood Biomaterials,Japan(ISBB, JAPAN)
National Health Research Institute(NHRI)
Tokyo Plastic Dental Society(東京形成歯科研究会)



Dr. 蘇 正堯 Dr. Prof.T. Burnouf Dr. 古澤 利武 Dr. 豊田 寿久 Dr. 増木 英郎 Dr. 北村 豊 Dr. 鈴木 正史 Dr. 奥寺 俊允 Dr. 渡辺 泰典

■お問い合わせ：国際血液生体材料臨床応用会議日本事務局
〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2-3F 東京形成歯科研究会
TEL：03-3919-5111 / FAX：03-3919-5114 / E-mail：okudera@carrot.ocn.ne.jp

ISBB チェアマン 奥寺 元



■ISBB国際血液生体材料臨床応用会議マニラ大会参加申込 (大会参加・認定医申込 / どちらかに○をいれてください)

ISBB 国際血液生体材料臨床応用会議マニラ大会参加申込書 FAX：03-3919-5114

氏名(フリガナ)	住 所	TEL / FAX

Korean Academy of Oral and Maxillofacial Implantology(KAOMI) Joint ISBB WORKSHOP 2011 IN BUSAN, KOREA



血液生体材料応用・幹細胞治療 国際ワークショップ

A hands-on training program using autologous blood to prepare thrombin
ー自己トロンビン制作法実習ー

Blood Biomaterials: From the lab to the patients

ISBB 国際血液生体材料臨床応用会議認定組織再生臨床医試験申込受付中
ー骨軟組織再生とインプラントに係わるポスタープレゼンテーション発表募集ー

参加者：国際有名血液専門家、幹細胞研究学者

日 時：2011年12月10日(土)~11日(日)

開催地：BEXCO 釜山(釜山広域市海雲台区冬柏路 116)

Keynote Speakers：

National Yang-Ming University
Kanagawa Dental College
Chosun University KOREA
Kanagawa Dental College
WHO consultant
JSOI 会長
報徳歯科
エルム駅前歯科クリニック
信州口腔外科インプラントセンター
王子歯科美容外科クリニック
東京形成歯科研究会

蘇 正堯
松尾 雅斗
Dr.SU-Guam Kim
木本 一成
Dr.Prof.T. Burnouf
古澤 利武
豊田 寿久
増木 英郎
北村 豊
奥寺 俊允
奥寺 元

Sponsored by：

KAOMI Dr.Jaehun Jeong
Cosponsored by：
National Yang-Ming University
World Federation of Preventive and Regenerative Medicine(WFPRM)
International Society of Blood Biomaterials,Japan(ISBB, JAPAN)
National Health Research Institute(NHRI)
Tokyo Plastic Dental Society(東京形成歯科研究会)



Dr. 蘇 正堯 Dr. 松尾 雅斗 Dr.SU-Guam Kim Dr. 木本 一成 Dr. Prof.T. Burnouf Dr. 古澤 利武 Dr. 豊田 寿久 Dr. 増木 英郎 Dr. 北村 豊 Dr. 奥寺 俊允

■お問い合わせ：国際血液生体材料臨床応用会議日本事務局

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2-3F 東京形成歯科研究会
TEL：03-3919-5111 / FAX：03-3919-5114 / E-mail：okudera@carrot.ocn.ne.jp

ISBB チェアマン 奥寺 元



■ISBB国際血液生体材料臨床応用会議韓国大会参加申込 (大会参加・認定医申込 / どちらかに○をいれてください)

ISBB 国際血液生体材料臨床応用会議韓国大会参加申込書 FAX：03-3919-5114

氏名(フリガナ)	住 所	TEL / FAX

2012 年度 東京形成歯科研究会主催 日本口腔インプラント学会認定講習会



東京形成歯科研究会代表 奥寺 元

認定講習会は経験豊富な講師陣を配し、最先端の講義・実習はもちろんの事、日常の臨床にもアドバイスが随時行っており、研修のみではなく日々の開業のプラスになるように指導し、合わせて研究や学会発表にも積極的に付帯的な影響を与えています。インプラント臨床バブルが弾けても、真の実力で生き延びるコースです。2012 年度も東京形成歯科研究会は学会発表および大学や他研修施設には追従を許していません。それも全て画期的研究と自負しております。歯科学に情熱を持つ若き医学生徒の参加を求めます。
東京形成歯科研究会では、リアルタイムの臨床相談や国際学会および国内各学会への発表指導をベテラン指導医および教育者により親切丁寧に行っております。

会 場	オクデラメディカルインスティテュートセンター (東京都北区王子)
日 時	2012 年 4 月開校 毎月 日曜 / 年 12 回
定 員	20 名 会場の都合で定員になり次第締め切らせて頂きます
参加費	65 万円 (分割可)



東京形成歯科研究会認定講習会に参加すると、質の高い研究に参加できます。その時代の国際的知識を得ることができます。国際交流ができ、人脉の拡大を盛んに行っています。

研究発表及び論文作りを親切に指導させていただきます。将来に渡って安心できる歯科診療の基盤作りとしての組織です。一緒に活動を行いましょう!!

■最近関与した活動と予定：

- 2011 年 2 月：ISBB(血液生体材料臨床応用会議) 横浜大会 (主管)
インプラント学会地方会ワークショップ参加
- 3 月：米国 Tissu Engineering 参加
- 5 月：東芝実験研究談話会
- 6 月：先端技術幹細胞臨床応用 台湾ワークショップ共同開催
- 7 月：Live Surgery (PRP・PRF・BMP 応用組織再生口腔美容外科治療)
- 9 月：日本口腔インプラント学会総会・学術大会
- 12 月：ISBB 韓国大会 (韓国 (KAOMI) 合同開催)
- 2012 年 3 月：ISBB フィリピン大会

受講生の声

山梨県甲府市開業：相澤 八丈 先生

インプラントは常に日進月歩の技術が要求されるが、講習会ではアットホームな雰囲気の中、世界の一流の先生の苦労話や本音の話が身近で聞く事ができ、丁寧に質問に答えてくださる。日頃から交流会も多く、先輩先生方からの技術的指導はもちろん、ライブオベ参加や専門医取得に不可欠なケースプレゼンテーション、研究発表や論文の指導も目線を同じくして指導していただき感謝しています。東京形成歯科研究会のメンバーに固辞するだけでなく、それぞれが幅広い人脉を持っていて広く大学や他の臨床研究施設との交流も盛んである研修施設である。

■主催：[東京形成歯科研究会認定講習会事務局] 認定施設 王子歯科美容外科クリニック内 担当：佐野・奥寺
〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2-3F Tel：03-3919-5111 Fax：03-3919-5114 E-mail：okudera@carrot.ocn.ne.jp

2012 認定講習会 申込書 FAX:03-3919-5114

氏名(フリガナ)	住 所	TEL / FAX

第 100 回日本美容外科学会

The 100th Congress of Japan Society of Aesthetic Surgery (JSAS)

The 22nd Congress of Korean Society of Aesthetic Surgery (KSAS)

The 9th Congress of Eastern Cosmetic Surgery (ECS)



会期：2012 年 5 月 26 日(土)~27 日(日)

会場：ホテルオークラ東京

International Academy of Maxillo Facial Cosmetic surgery

国際口腔美容外科アカデミー認定試験

老齡化社会が進み、QOL が重視されている今日、人はいつまでも健康で美しく人生を送りたい、それが万人人類の願望である。アンチエイジングという概念が世界的な広がりを見せている昨今、さまざまな医学分野のコラボレーションが必要不可欠となり、それは人々に現実味ある医療を提供することが可能となりました。

長い歴史と各分野多数が参加する最大かつ権威ある「日本美容外科学会」との連携により、歯科医学がより進化し、これからの歯科美容外科は単に歯冠の審美や漂白、矯正に止まらず、顎顔面の再構成、生理的回復即ち、歯科領域のアンチエイジングまで踏み込んだ学習を追究・研究すべきだと考えます。顎顔面美容外科における環境は、従来型の補綴治療の誘導や、口腔外科のみではなく顎再建と保全が可能な「口腔インプラント」がその根幹となり、その英知を結集して社会貢献することが「国際口腔美容外科アカデミー」の創立趣旨で活動しております。この度、認定医精度発足により認定医試験を開催する事になりました (ポスター発表形式)。

第 100 回日本美容外科学会連携
国際口腔美容外科アカデミー認定医試験
試験日：2012 年 5 月 26 日(土)・27 日(日)
会場予定：ホテルオークラ東京
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-4 ホテルオークラ東京・本館
TEL：03-3582-0111 http://www.hotelokura.co.jp/tokyou/index.html
試験内容：顎顔面口腔美容外科に関わるポスター試験
受講料：60,000 円



顎顔面口腔部コーディネーター
国際口腔美容外科アカデミー代表：奥寺 元

第 100 回日本美容外科学会参加および口腔部認定試験参加申込 [学会参加・認定医申込 / どちらかに○をいれてください] FAX：03-3919-5114

氏名(フリガナ)	住 所	TEL / FAX

■資料請求：王子歯科美容外科クリニック内 担当：佐野・奥寺